

特記事項記載についてのグループワーク

～審査会委員に伝わる特記事項の書き方を理解する～

仙台市健康福祉局介護保険課

研修の進め方

①個人ワーク(10分) ⇒資料3-2へ

- ・事例1・2について特記事項の記載が不十分と思う箇所はどこか。

point!

事例1(要支援1)、事例2(要介護3)の方を審査する際、審査会が求めている情報は何かを考えて、特記事項の記載を充実させる。

②グループディスカッション(40分)

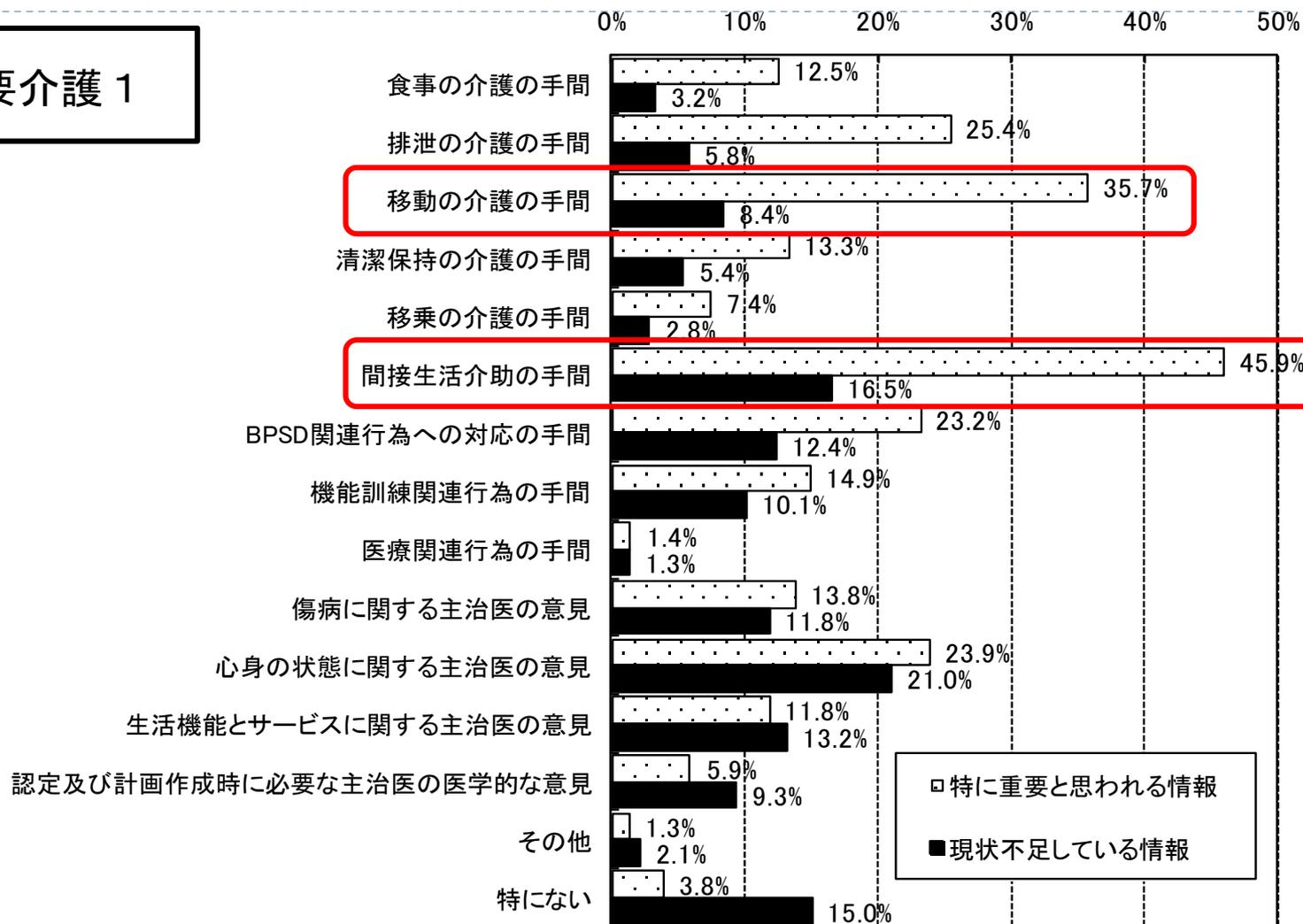
- ・自己紹介をし、進行役・発表役を決める。
- ・個人で検討した内容を、グループ内で共有しながらよりよい特記事項の記載のあり方等について、意見交換を行う。

③発表(事例1・2 各2～3グループ)

④まとめ

軽度のケースで審査会が重視する情報

非該当～要介護 1



資料) 平成25年度老人保健健康増進等事業「要介護認定業務の実施方法に関する調査研究事業報告書」 審査会委員n=5,793

軽度のケースでの特記事項の記載ポイント

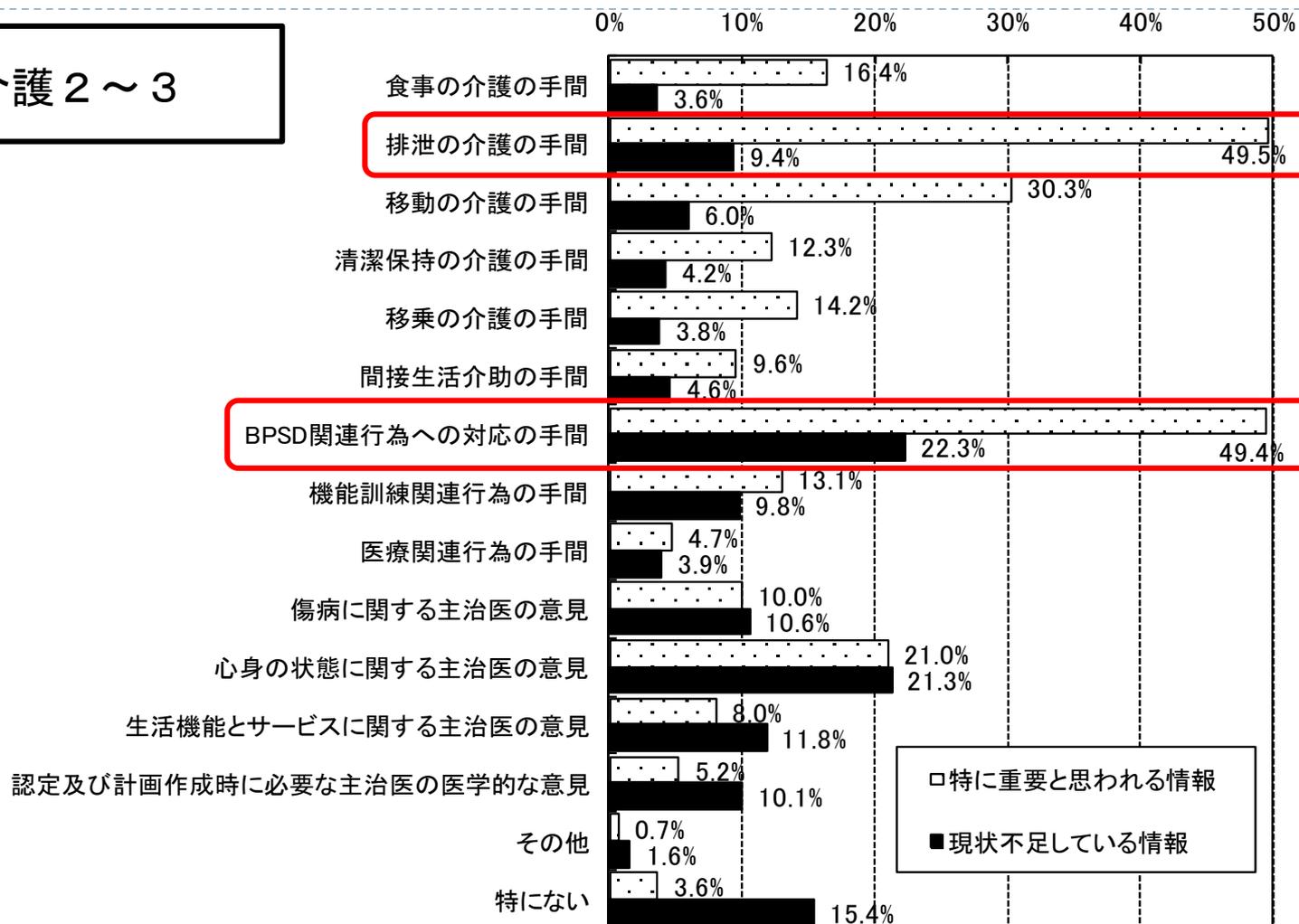
■「移動」と間接介助に関する5群の記載を充実させる

- ▶ 軽度者の多くは、2群での選択が、頻度により「介助されていない」という場合や、直接介助を必要としない場合が多いため、特記事項の記載があることで評価される。

群	調査項目	軽度のケースにおける「特記事項」の記載ポイント
2群	2-2移動	<ul style="list-style-type: none">・ 場面によって、移動の様子や行われている介護が異なる場合があるため、移動の機会を特定し、具体的な場面ごとの状況を記載する。・ 外出時の移動や、転倒等の頻度について丁寧に聞き取り記載する。
	2-5排尿 2-6排便	失禁がある場合は、トイレまでの移動が間に合わないことが原因であれば「2-2移動」の介助が適切かどうか、タイミングがわからないことが原因であれば、「2-5排尿、2-6排便」でトイレへの誘導の声かけなどの介助が必要かどうかを検討し、検討した項目の特記事項にその評価を記載する。
5群	全体	介助が行われている理由が、「能力」によるのか、「技術的な経験がないため」なのか、「習慣」なのかがわかるように「できること」も記載する。
	5-5 買い物	外出等と関連づけて、実際の買い物の様子や、日用品・食材等の準備の状況を明らかにする。
	5-6 簡単な調理	簡単な調理に限定せず、食事の準備などを誰がどのように行っているかを記載する。

中度のケースで審査会が重視する情報

要介護2～3



資料)平成25年度老人保健健康増進等事業「要介護認定業務の実施方法に関する調査研究事業報告書」 審査会委員n=5,793

中度のケースでの特記事項の記載ポイント

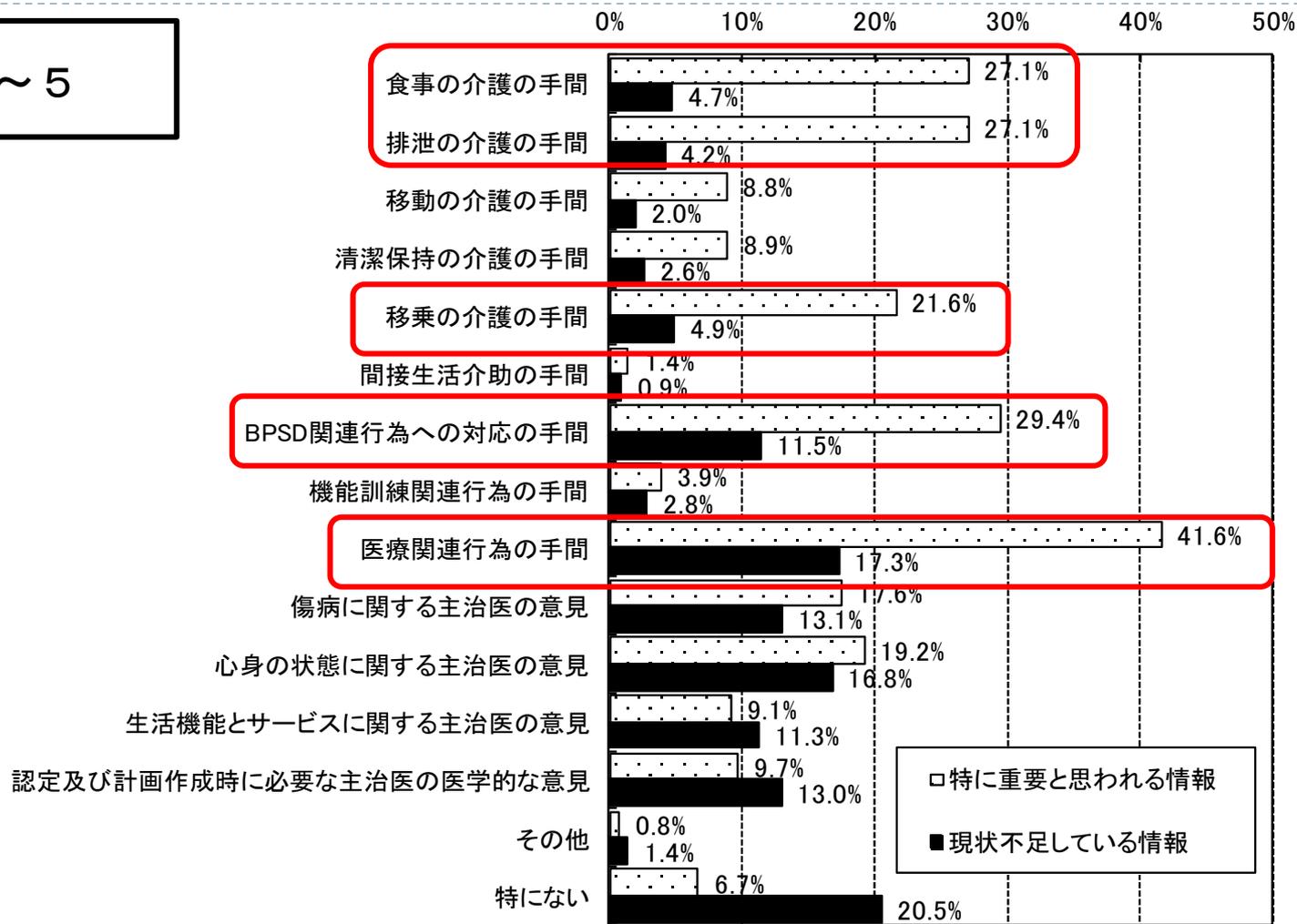
■ 2群の排泄と4群のBPSDに関する記載を充実させる

- ▶ 中度者では、身体機能が低下し、直接介護が部分的に行われていることが多く、また、認知機能が低下し、BPSD関連の行動がある場合がある。

群	調査項目	中度のケースにおける「特記事項」の記載ポイント
2群	2-5排尿 2-6排便	一日の中で「何度も発生する介助」であり、実際の介護において「個人差」がある。【①排泄方法×②頻度＋③失敗の有無と介護 ④昼夜の違い】を記載する。
4群	BPSD関連 全体	【①行動への対応(介護の手間)と②頻度】を記載する。 選択基準 = 「行動の有無」とその「頻度(ある・ときどきある)」 特記事項 = 「介護の手間」の具体的な「内容」とその「頻度」 以下の場合も特記事項に記載する。 ・選択が「ある」であって、「介護の手間」が発生していない場合 →書かないと分からない。 ・選択が「ない」であって、「介護の手間」が発生している場合 →定義には当てはまらないが介護の手間になっていることなどは記載する。 該当する項目がない場合で、BPSD関連の「介護の手間」が発生している状況があれば、類似する項目か認知症高齢者の日常生活自立度の特記事項に記載をする。

重度のケースで審査会が重視する情報

要介護 4～5



資料) 平成25年度老人保健健康増進等事業「要介護認定業務の実施方法に関する調査研究事業報告書」 審査会委員n=5,793

最重度のケースでの特記事項の記載ポイント

■ 直接介助と医療関連行為に関する記載を充実させる

- ▶ 重度者では、身体機能が低下し、2群の直接介護がほとんど全面的に行われていることが多い。
- ▶ 「寝たきり経管栄養」でも「介護の手間」の量は同じではない。

群	調査項目	最重度のケースにおける「特記事項」の記載ポイント
2群	2-1移乗 2-2移動	<ul style="list-style-type: none">▪ 移乗・移動の機会がない場合は、その機会が生じた場合を想定して適切な介助の方法を選択し、その判断根拠となる具体的な事実を特記事項に記載する。▪ 体位交換にかかる介護の手間は「2-1移乗」に記載する。
	2-4食事摂取	<ul style="list-style-type: none">▪ 食事摂取の介護にかかる時間
	2-5排尿 2-6排便	<ul style="list-style-type: none">▪ おむつ交換にかかる介護の手間(回数、拘縮・介護抵抗・不潔行為などの有無)
4群	BPSD関連	<ul style="list-style-type: none">▪ BPSD関連(カテーテル等の抜去など)の介護の手間
	特別な医療	<ul style="list-style-type: none">▪ 経管栄養にかかる時間や処置▪ 喀痰吸引の回数▪ じょくそうの処置

まとめ

- ▶ 特記事項には、基本調査項目の選択肢の選択だけでは伝えきれない対象者の特徴を記載することが重要。
- ▶ 同じ選択肢であっても、介護の手に個人差が発生しやすい「移動」「食事」「排泄」「BPSD」の記載が、特記事項の中でも特に重要な項目であり、記載の充実を図る。
- ▶ 文章は短く、6W2Hを意識し、略語や専門用語は使わない。

※ 6W2Hとは

通常： 5W(whenいつ who誰が what何を whereどこで whyなぜ) 1H(howどのように)

追加： +1W(with whom誰と一緒に) +1H(how oftenどのくらいの頻度で)

- ▶ 調査票を提出する前に、基本調査項目のチェック漏れ、誤字・脱字、個人が特定される内容などがいないかを再確認する。消えるペンでは書かない。

※ 提出前の最終確認には、「認定調査票のチェックポイント」(参考資料1)を活用してください。

- ▶ 認定調査は、安全に配慮して実施すること。